

インフル 異例の長期流行

残暑の中、インフルエンザへの警戒度も異例の高まりを見せている。

直近の感染者数（4～10日報告分）は1定点医療機関当たり4・48人で、前週比1・75倍。例年、冬に流行し翌春には収束するが、昨年12月下旬に流行の目安とされる1人を超えて以降、一度も下回ることなく新シーズンの9月に突入した。現在の集計方法となった平成11年以来、初めてのことだ。

人との接触を避けるなど新

学校再開で感染拡大

型コロナウイルス対策の影響で、過去2シーズンはインフルエンザ感染者数が激減。多くの人の免疫が低下した状態で人流などが通常化に向かい、異例の流行継続につながったとみられる。

夏休みが明けた8月下旬ごろから、拡大が加速。厚生労働省によると、全国で学級閉鎖となったのは今月4～10日の1週間で計627施設で、前週（計82施設）の7倍以上となった。

「いとう王子神谷内科外科

クリニック」（東京都北区）では、インフル陽性者の大半が10代。実数はコロナ陽性者を逆転した。伊藤博道院長は「2学期が始まったあたりから爆発的に増えており、校内感染が疑われる。地域性もバラバラで今後同時多発的に発生が続くのではないかと懸念する。」

インフルエンザのワクチンは10月から接種が本格化し、コロナワクチンと同時接種も可能だ。伊藤氏は「インフルエンザの本番はこれから。換気や手洗いなど、基本対策にも改めて注力してほしい」としている。